

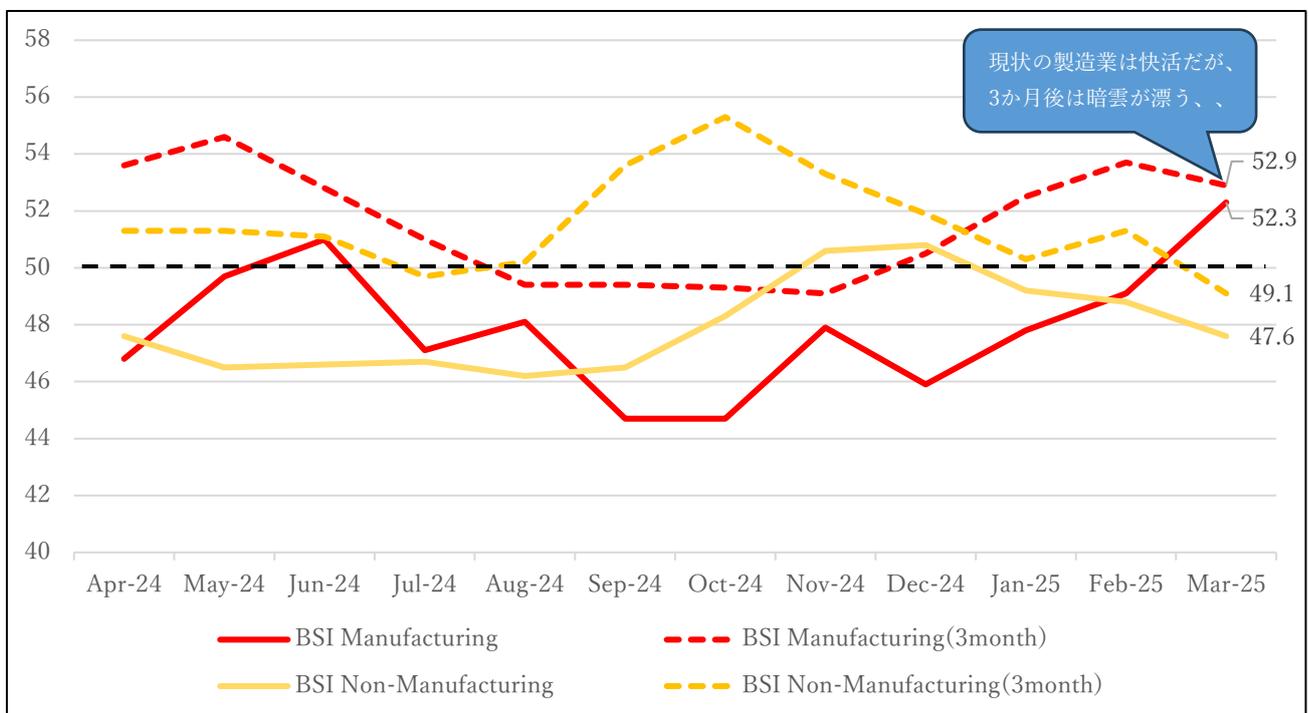
タイ経済指標斜め読み

(2025年4月版)

ビジネスサポート部
加藤義人
kato@mat.co.th

1. 【指数データ：景気指数】

タイ中央銀行は、3月のビジネス景況感指数（BSI）を発表した。下グラフはその主要項目である製造業と非製造業をグラフ化したものである。（50＝先月から安定）

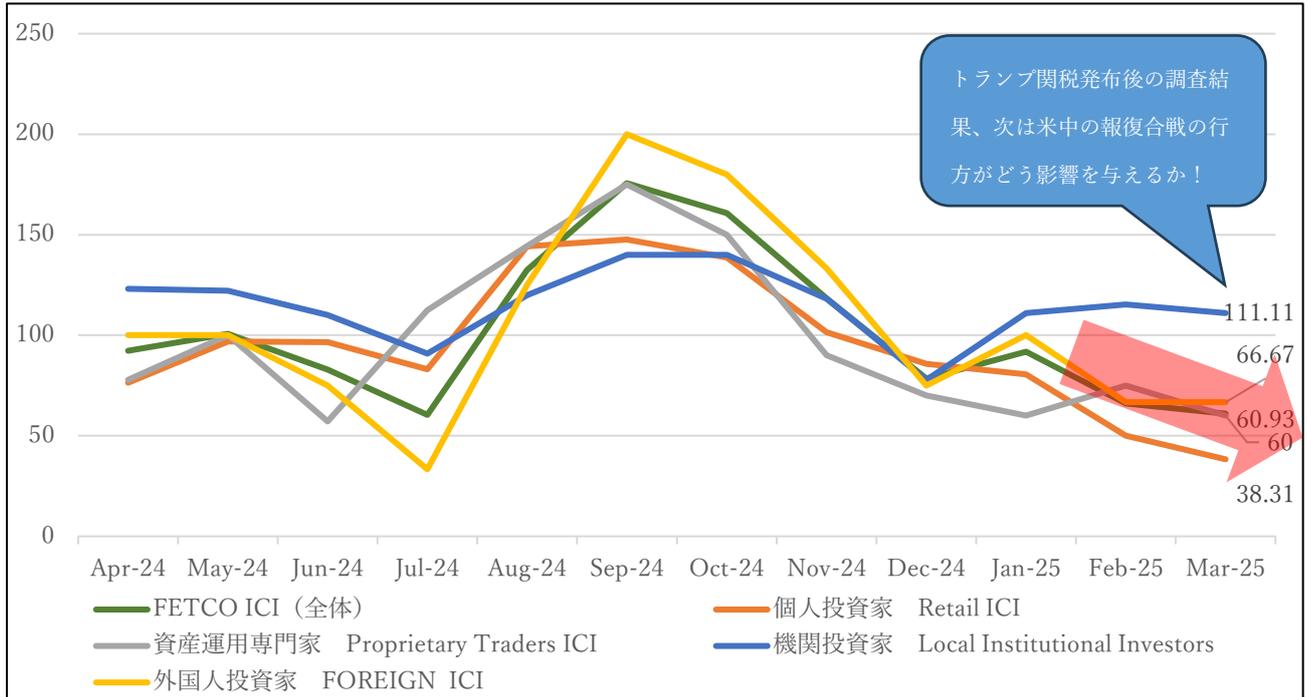


3月のBSI製造業は52.3、同三か月後の期待値は52.9となった。非製造業は47.6、同三か月後の期待値は49.1となった。製造業BSIが先月から大きく改善した。要因として、4月から始まるトランプ政権での互惠関税発動前に製品のアメリカ向けの輸出が好調であったことが挙げられる。また、貿易相手国の景気回復もあり、製造業は好調となった。とは言え、3か月後の期待値では、その値は下落傾向が予想され、互惠関税の影響が心配される状況。次に非製造業だが、ホテルと外食関連での落ち込みが大きく、中国の景気が回復していない状況にて、観光客向けの消費の落ち込みが続く状況と見ている。また、3月末に発生したミャンマー地震の影響はこの指数には含まれておらず、来月の指数が気になるところ。

出所：<https://www.boi.or.th>

2. 【指数データ：投資指数】

タイ資本市場協会連盟（FETCO）は3月、向こう3ヶ月（6月）の投資家信頼感指数を
発表した。



● 投資家信頼感指数（FETCO ICI: FETCO Investor Confidence Index）、向こう3カ月の期待指数（0～200で高いほど好感）

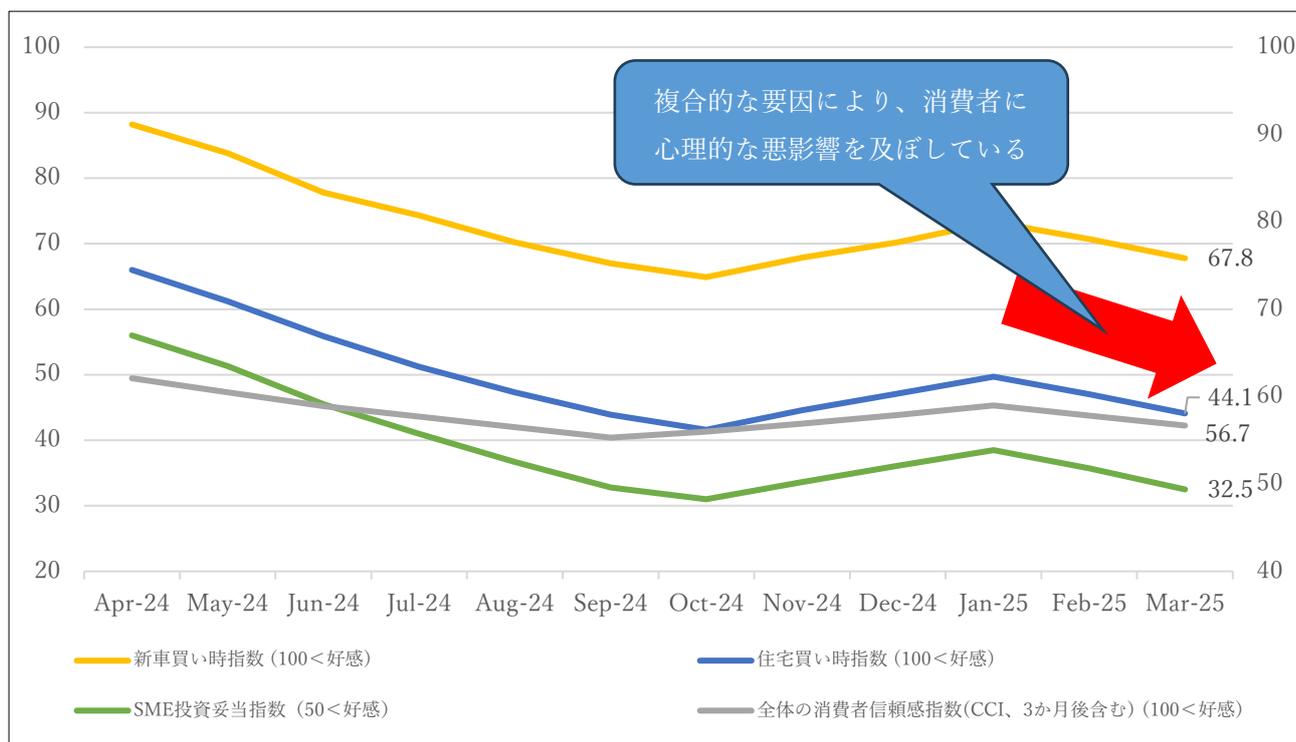
● FETCO ICI 区分け：●(160 - 200) 大変力強い、●(120 - 159) 力強い、●(80 - 119) 中間、●(40 - 79) 弱い、●(0 - 39) 大変弱い

3月のFETCO指数（全体）は60.93、個人投資家は38.31、資産運用専門家は60.00、機関投資家は111.11、外国人投資家は66.67となった。全体的にトランプ政権の互惠関税への影響を懸念して、下降傾向が続いている状況。それに加え、ウクライナ問題や観光業の停滞、地震の影響などの複合的な要因が重っている状況。

出所：<https://www.fetco.or.th/>

3. 【指数データ：物価指数】

タイ商工会議所大学（UTCC）は、1月の景気指数（全体の消費者信頼感指数：CCI、新車買い時指数、住宅買い時指数、SME投資妥当指数）を発表した。



3月のCCIは56.7、新車買い時指数は67.8、住宅買い時指数は44.1、SME投資妥当指数は32.5となり、全ての指数が二カ月連続で改悪となった。要因としてトランプ政権の互惠関税引き上げに於ける影響やミャンマー地震の影響、景気回復の遅れで消費者の移出が増えないなどの点が挙げられた。一方、政府のデジタルワレット政策での現金支給が行われている事や、輸出の増加、ビザ緩和による外国人観光客の増加などが挙げられている。とは言え、互惠関税での輸出減や地震被害の影響で宿泊施設のキャンセル増加、シーズンオフとなる4月以降の経済の見通しは依然厳しい状況にある。

出所：<https://cebf.utcc.ac.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2024 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。